



## 九州ラーメン紀行 / 福岡へ行くぞ！編

2001年3月4日掲載

冬は、ラーメンが恋しくなる季節である。しかも、本場のヤツ。せっかく航空券も安くなっているのに、1泊2日でひとつ飛びすることにした。

今回は、九州へ。2年前にも行った福岡と、初めての熊本に行くのだ。

それにしても、航空券は安くなったものだ。正規の運賃は、東京 福岡間往復で53000円もする。

しかし、今回は各種割引を駆使して31500円に。さらに、帰りは1000円を追加してレインボーシートにしまったのだ。競争原理よ、ありがとう！

さて、今回の行程は次の通りである。まず、福岡まで飛行機へ。福岡市内を周り屋台を堪能して1泊する。

明くる日は博多から熊本へ移動し、熊本市内を見学。熊本ラーメンを食して福岡へ戻り、そこから飛行機で帰京するというルートである。

我ながら、ごく普通の土日の連休を使った強行スケジュールだ。

いよいよ旅行当日、愛車「グレカリブ」で羽田に向かう。目指す飛行機はJAS311便。羽田を13:00に出発する。

予定通りに離陸した飛行機は、西へと向かう。眼下に、川崎に住む友人宅がハッキリ見えたほか、遠くに我が家も望める。さらに進むと、湖面が真っ白な諏訪湖も見ることができた。それだけ雲も少ない。

座席に着いた液晶モニターにも、現在の飛行地点や高度、巡航速度が表示されている。しかし、高度が8,500mあたりの端数で数値が上がらなくなった。どうも、それ以上は表示できないらしい。さらに欲を言えば、高度はフィート、速度はノットで表示してほしかったなあ。

たとえモニターでカーナビのような画面が出ても、地図帳だけは欠かせない。画面はおおざっぱな地図なので、細かい地名までは出ていない。地図帳の面目躍如である。

「あの道路は何だろう？」「どこのダムだ？」

そんな景色を見るたび、地図帳で確かめる。特に、西日本の土地勘がないので、地図帳は心強いパートナーなのだ。

そうこうしているうちに、岡山県上空あたり

で眼下に雲がたれ込める。しかし、雲の合間から地上が見えている。

しばらく見えていた陸地から、海の上へ。玄界灘である。ここまで来ると、いよいよ着陸態勢だ。

福岡ドームや福岡タワーが見えると、ほどなく福岡空港へ着陸。ほぼ定刻である。

2年ぶりの福岡市である。そのときの模様は1999年2月にアップした「麺類紀行」をご覧ください。

さて、福岡市内は地下鉄とバスでの移動になる。地下鉄・バス・西鉄電車の共通カード「よかネットカード」を購入し、地下鉄で天神へ向かう。

空港から福岡市の中心地・天神へは地下鉄でわずか10分ほど。あっという間に天神に着いてしまう。

地上へ出ると、こんな案内が歓迎してくれる。



何の変哲もない地図かと思いきや、実はワールドワイドなのだ。右下は天神周辺、左下は福岡市周辺の案内図。しかし、上には福岡市を中心とした同心円の図がある。

これを見ると、東京と上海は福岡から約1,000kmと同じ距離にあることがわかる。福岡市は、アジアの中心と言えるのだ。

今回の宿は、天神近くのシティホテル。宿に向かう途中、変なものを見つけてしまった。それは、天神なのに「足立」や「大宮」のナンバーの車を見てしまったのである。これじゃあ、九州に来た実感がわからないよ。

ホテルに到着し、チェックイン。ここから、市内観光に出発！

その続きは、[こちら](#)をご覧ください。

[\[トップページ\]](#)



## 九州ラーメン紀行 / 福岡市内観光だぞ！編

2001年3月10日掲載

「九州ラーメン紀行」の2回目。1回目は[こちら](#)からどうぞ。

ホテルでチェックインをすませ、天神のバス乗り場へ。ここでバスの路線図をもらう。

知らない土地でバスに乗るとき、どこへ連れて行かれるかわからない。だから、路線図は必需品なのだ。

天神からバスで博多埠頭方面に乗る。目的地はベイサイドプレイスである。

途中、「対馬小路」というところを通る。決して「つしまこうじ」ではない。「つましょうじ」と読む。ちなみに、ATOKでも出た。

バスは博多埠頭行きではないので、「博多埠頭入口」で降りる。バス停前の酒屋で、パンとお茶を買う。

徒歩5分でベイサイドプレイスに到着。まずは、目の前にある博多ポートタワーに登る。



福岡市内が一望できるポートタワーは、何と入場無料。むしろ、これで入場料を取る方がおかしいかも。

隣のベイサイドプレイスは客船乗り場になっているが、ちょっとしたショッピングモールにもなっている。行き先は忘れたが、ちょうど出航するところだった。

再び天神に戻り、今度は地下鉄で筥崎宮（はこぎきぐう）へ。地名は「箱崎」だが、神社の名前は「筥崎」。なぜだろう？

ここは勝負の神様がまつられており、「敵国降伏」の文字も。また、地元プロスポーツチームの絵馬も奉納されていた。

筥崎宮の参道は、まっすぐ博多湾まで続いている。途中にはいくつも鳥居があり、その中で最大なのは国道3号線に面した鳥居。その写真

がこれだ。



信号機と比較しても、その大きさがわかるだろう。先ごろ行われたマラソンでもここをコースとしているので、中継でも紹介されたはずである。

ところで、ここでポケットに入れておいたお茶のボトルがどっかに行ってしまったことに気づいた。さっき博多埠頭近くの酒屋で買ったヤツだ。

たぶん、バスか地下鉄で置いてきたのだろう。もったいない。

気を取り直し、筥崎宮からいよいよ長浜の屋台へ向かう。この続きは[こちら](#)へ！

[\[トップページ\]](#)



## 九州ラーメン紀行 / やっぱり長浜だぞ！編

2001年3月17日掲載

今月は「九州ラーメン紀行」をお届けしている。1回目は[こちら](#)、2回目は[こちら](#)をご覧ください。どうぞ。

お茶をなくして気落ちしているいとまもなく、筥崎宮（はこざきぐう）からいよいよ長浜の屋台へ。地下鉄で行ってもよかったのだが、途中乗り換えもあるし、最寄り駅の赤坂から歩くので、バスにした。

バスで福岡市街を横断。中洲から天神にかけては、中心部ということもあり渋滞に捕まる。でも、天神を抜けるとスイスイ。

この路線の最寄り「平和台」で降りる。ここから歩いて5分、長浜の屋台街へ向かう。

2年ぶりの長浜、あたりはとんこつのおイニーが立ちこめている。「ん、これだ！」。蜜に群がるアリのように、屋台に吸い寄せられる。

早速屋台に入る。「そう、この雰囲気！」。屋台独特の雰囲気におそわれる。

店員のおんちゃんに「飲まれますか？」。そう、今回は屋台で飲みたいのだ！

何を隠そう、前日は職場で飲み会があったのだが、長浜の屋台のためにセーブをしたのである。ビールをグラスで3杯ほど飲んだあと、ソフトドリンクでお茶を濁していたのだ。

ラーメンとビールを注文する。ほどなくラーメンが登場し、味わう。細麺ととんこつスープが絶妙にマッチする。これを求めて、はるばる東京からやってきたのだ!!

1杯目を平らげ、おつまみを注文。ぎんなんの串焼きや鳥皮など、ビールと相まって至福のときである。

もちろん、替え玉も。通は、1杯目には何も入れず、2杯目で初めて紅しょうがを入れるらしい。私も、それに則る。

そうこうしているうちに、屋台の中は客が増えていった。テーブル席にも、カウンターにも。私はどんどん端の方に追いやられた。まあ、1人なので。

ビールも飽きてきたので、梅酒のソーダ割りを頼む。そして、鶏の唐揚げも。

目の前のおつまみで、酒も進むし食も進む。久々に「食ったー！」という気分である。

梅酒のソーダ割りをガンガンお代わりし、串焼きをオーダーする。串焼きも美味だが、付け

合わせも美味なのだ。

その付け合わせとは、キャベツ。生のキャベツをざく切りにして、酸っぱいタレをかけただけなのだ。

キャベツの歯ごたえと、酸味。これがまた酒を進めるのだ。

しまいには、店のあんちゃんも「結構飲まれますね」だって。でも、なれない土地での酒なので、壊れない程度で撤収する。

さんざん飲んで食って、お会計は3850円也。東京人の感覚だと、居酒屋で飲み会しても、この値段ではなかなか飲めない。

また来ることを約束(?)し、近くのバス停「港一丁目」から宿に帰る。今回の旅行では、バスが大活躍である。

宿に着き、寝る。そして翌朝、熊本に向かうのである。

続きは、[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)



## 九州ラーメン紀行 / 熊本へ乗り込むぞ！編

2001年3月24日掲載

今回のつれづれWEBは、「九州ラーメン紀行」の4回目。1回目は[こちら](#)、2回目は[こちら](#)、3回目は[こちら](#)をご覧ください。

2日目の朝、福岡は小雨が降っていた。8時半に目覚めてシャワーを浴び、9時にはホテルを出る。

ホテルは西鉄の線路沿いで、ちょうど天神・西鉄福岡と薬院の間。せっかくなので、1駅ではあるが西鉄電車に乗ってみる。

薬院から天神・西鉄福岡まではわずか2分。初めての西鉄電車の旅だった。

天神から博多までは地下鉄で移動。博多からは特急「つばめ」で熊本に向かう。

乗車するのは、博多10:05発の「つばめ7号」。熊本まで、1時間15分の旅である。



定刻通り、博多を出発。ここでカバンをあさっていると、ホテルの仮領収書が出てきた。これには「チェックアウト時にお出しください」と書いてある。

ということは、チェックアウトせずに宿を出たことになる。宿に電話し、チェックアウトし忘れたことを伝える。追加料金は発生しなかったため、事なきを得た。

特急「つばめ」の車内にはビュッフェがある。早速、海鮮チゲスープを頼む。列車内なので、普通の紙コップの量で260円と高めの設定。でも、なかなかの味なのだ。

途中、車窓で「諫早湾の干拓反対」の垂れ幕を発見。反対側の車窓を見ると、遠くに有明海が見える。

博多 熊本間で有明海が見えるのは、荒尾の周辺のみ。何かと話題の有明海、「死にゆく海」となってしまうのだろうか。

いよいよ熊本に到着。福岡で降っていた雨も

やんでいた。

熊本県に来るのは、高校の修学旅行以来、約10年ぶりである。でも、熊本市内は初めてなのだ。

市電に乗り、中心部へ。ちょうどこの時期の休日、市電は100円均一のキャンペーン中らしい。つまり、どこまで行っても1コイン、100円でいいのだ。

「市役所前」で降り、仕事上のつきあいがある人の職場へ向かう。その人とは今まで電話でしか話をしていなかったのが、実際に会うのは初めてである。

無事職場に到着し、その人とご挨拶。オススメの熊本ラーメンのお店や、熊本のおみやげの情報を教えてもらう。

1時間ほどでお別れ。教えてもらったとおりの道順で、熊本の市街へと歩く。

熊本の中心部には、大きなアーケード街が3つある。北から上通り、下通り、新市街とあり、ほぼ1つのラインでつながっている。

ここを散策しながら、九州の携帯電話のカatalogをもらう。また、ここで変なものも発見してしまった。

レコード屋にあった、地元のタレントが出したCDの看板。まるで映画の看板のようなのだ。あまりにおもしろいネタなので、帰京後すぐにその写真を友人にメールしてしまった。

アーケードを抜け、近くにある交通センターへ。ここでバスと市電に乗れる「TO熊（ツーユー）カード」を購入する。

交通センター前の道から、熊本城が見える。今回は遠くから見るだけで、見学は次回への課題にした。



さあ、腹が減ったのでラーメンを食べに再び市電に乗る。以下、[こちら](#)に続く。

[\[トップページ\]](#)





## 九州ラーメン紀行 / 熊本ラーメンだぞ！編

2001年3月31日掲載

今月お送りしてきた「九州ラーメン紀行」も、今回が最終回。[1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)、[4回目](#)は、それぞれをご覧ください。

熊本市の中心部から、熊本ラーメンを食べに市電に乗る。目的地は、「二本木口」である。

二本木口から徒歩5分ほどで、全国に名の知られた熊本ラーメンの店がある。当然、店の前は行列。もちろん、ラーメンのために並ぶ。

店内の混雑は相当なもの。でも、回転がいいので、比較的短時間で店内に入れる。

10分ほど待って店内へ。そして、ラーメンを注文する。

ほどなく、ラーメンの登場。とんこつベースだが、スープには揚げニンニクが。また、長浜と違い、麺が太い。

同じとんこつベースでも、味が違う。「これが熊本の味が」と感慨に浸りながらも、ラーメンをすすする。

すべてを平らげ、おみやげ用のラーメンも購入。実は、おみやげ用は、熊本の中心部にあるデパートでも売っていた。

市電に乗り込み、水前寺公園へ。本来なら180円かかるのだが、キャンペーンで休日はどこまで乗っても100円均一となっていた。

水前寺公園に到着。拝観料400円を払い、中へ向かう。正式には「水前寺成趣園（じょうじゅえん）」といい、池を配した桃山式の庭園である。

園内には神社もある。また、梅園があり、五分咲きの梅を楽しむ。



ところで、ここへ来たのには、別の目的もあるのだ。レアもののお菓子を買うためである。

園内にある茶室で、そのお菓子が売られている。早速購入すると、店員が「よくご存じですね」と。何でも、職人が必要最低限しか作らないらしく、大量生産ができないとのこと。また、熊本空港とここでしか売っておらず、空港ではすぐに売り切れてしまうらしい。

水前寺公園をあとに、再び熊本市街へ。「熊本といえばここ！」というデパートで、辛子れんこんを買うためだ。

地下の食料品売り場で、すぐ食べる用とともにおみやげ用を購入。デパートの休憩所で食べる。

いよいよ熊本ともお別れである。「水道町」から市電に乗る。

次の「通町筋(とおりちょうすじ)」で、客がどっと乗ってくる。その混雑は、東京のラッシュ並み。そして、女子中学生に囲まれる。

箸が転がっても笑ってしまう年ごろは、運転士のアナウンスに敏感に反応してしまうらしい。アナウンスがあるたびに、彼女たちはクスクス笑っているのだ。

こんな状態のまま、「熊本駅前」に到着。この電停止まりということもあり、みんな一斉に降りる。

熊本駅に入り、列車を待つ。帰りは、熊本18:00発の「つばめ20号」。禁煙席がとれなかったので、喫煙席になった。

定刻に出発。私の隣の席は、鹿児島で准看護婦の試験を受けた女の子3人組。試験の答え合わせをしていたようだ。

さて、私は夕飯をどこで食べようか考えていた。ちょうど車販が通りかかったので、弁当を買おうとする。

しかし、売り切れ。でも、久留米で駅弁を買って持ってきてくれるらしい。とりあえず、一安心。

一安心してられない事態が発生！ 何と、大牟田あたりからノロノロ走るようになったのだ。

どうも、先行がつかえているらしいが、特急らしからぬスピード。さっきまで100km/hを超えるスピードだったのに。

久留米をすぎ、待望の弁当が到着。さあ、夕飯だ！ それでも、ノロノロは解消されない。

結局、博多には定刻の19:16より10分以上遅れて到着。この列車と接続する特急や新幹線も、すべて待たされたようだ。

博多駅で明太マヨネーズを購入し、地下鉄で空港へ。博多から空港まで、わずか5分で着いてしまうのだ。

私が乗るのはJAS322便。しかも、レインボーシートである。

飛行機に乗り込み、定刻の20:35に出発。羽田へと向かう。

帰りは、行きよりも速い。何しろ、西から東へ吹くジェット気流に乗るからだ。そのため、速度は1200km/hを超えるという。

座席の液晶モニターでも、速度は確認できる。また、行きの機材と違い、8500m以上の高度も表示される。

さて、帰りは地上の明かりを見ながらのフライトだが、志摩半島上空から海上に出てしまった。次に明かりを確認したのは、伊豆大島。羽田への着陸態勢をとっているときである。

眼下に海ほたるを見ながら、羽田へランディング。こちらは、ほぼ定刻で羽田に着いた。

羽田からは、愛車「グレカリブ」で自宅へ。しかし、途中「福岡」のナンバーをつけたトラックを発見してしまった。

そんなもの見ちゃえば、帰ってきた気になれない。ちなみに、そのトラックは東名高速に乗ったようだ。たぶん、福岡に帰るのだろう。

以上で、今回の「九州ラーメン紀行」は終了。さあ、次回の紀行シリーズはどこにしよう？

[\[トップページ\]](#)